

# 施策評価シート

評価年度	令和元年度	事業実施年度	平成30年度	施策主管次長名	教育部次長 山崎正勝	
施策番号	57	施策名	生きがいを持って楽しく暮らせるまち		総合計画掲載頁	68
関係課名	生涯学習推進課、協働推進課、教育行政課、長寿介護課					

## 1. 施策の概要

施策の目的	対象	市民	対象指標名		単位	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
			人口		人	61,070	61,356	61,153	61,604	-
			高齢者(65歳以上)		人	10,588	10,762	10,841	10,897	-
意図	生涯にわたり豊かな生活を過ごしてもらう				成果指標名	生涯学習講座受講者				
					成果指標名	生涯学習自主活動者				
					成果指標名	生涯学習に満足している人の割合				
					成果指標名	シルバー人材センター会員数				

## 2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	生涯学習講座受講者	回	4,100	2,535	4,500	2,354	4,500	4,500
	指標設定の考え方と把握方法 生きがいを持って暮らすためには、市民自らが学びたいことや楽しみたいことを生涯を通じて学習、自主活動することであり、市が開催する講座の実績や資料で把握							
指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	生涯学習自主活動者	人	3,134	2,907	3,180	2,093	2,000	-
	指標設定の考え方と把握方法 生涯を通じて学習、自主活動する個人および団体を教育委員会、文化協会の資料により把握							
指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	生涯学習に満足している人の割合	%	70	41.3	50	40.7	50	-
	指標設定の考え方と把握方法 生涯を通じて学習、自主活動することのできる環境づくりを指標として設定し「行政評価アンケート」で把握							
指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	シルバー人材センター会員数	人	389	372	400	370	373	400
	指標設定の考え方と把握方法 高齢者が生きがいを持って経験や趣味などを生かし社会参加することの指標として設定し、長寿介護課で把握							

## 3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動へ参加するとともに、仲間づくりと自主活動を行う。</li> <li>・高齢者は、積極的に知識と経験を活用して社会参加をする。</li> </ul>			
	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある学習講座の企画・開催や、地区での生涯学習活動を支援する。</li> <li>・高齢者は、就業の場を提供する。</li> </ul>			
達成度評価	近隣との比較	<p>・「生涯学習講座受講者」の人口割合は、3.8%であり、刈谷市(1.9%)、日進市(1.8%)と比べると高い割合である。</p> <p>・「生涯学習自主活動者」の人口割合は、3.4%であった。生涯学習自主活動者の定義が市によって異なるため他市と比較はできない。</p> <p>・「シルバー人材センター入会率」は、西三市及び豊明市、日進市、長久手市、東郷町との比較で、みよし市は2.7%で長久手市(4.1%)、高浜市(3.7%)、幸田町(3.5%)に次いで高い割合である。</p>			
	過去3年間の実績との比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習講座受講者は、悠学カレッジ講座参加者は微増であるが、地区生涯学習講座参加者は年々減少傾向にある。</li> <li>・生涯学習自主活動者についても、平成28年度にサンライクラブの登録団体が増えたため、活動者も増加したが、その後若干減少している。</li> <li>・生涯学習に満足している人の割合(満足度)は、28年度は行政評価アンケートを行わず総合計画のアンケート数値であるため70.1%に上昇しているが、29年度及び30年度は、従来のものさしである行政評価アンケートの数値であるため41.3%及び40.7%と数値が下がっている。</li> <li>・シルバー人材センター会員数は、退会者数に比べ入会者数が少ないため、会員数はやや減少傾向にある。</li> </ul>			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習講座開催事業については、大学との包括協定に基づいた地域連携公開講座の開催をはじめ、ライフステージに合った講座を効率よく開催しているが、受講者が固定化する傾向が見られる。</li> <li>・今後は、市外及び民間で自主的に活動している方へ生涯学習活動の情報発信が必要となる。</li> <li>・「シルバー人材センター会員数」については、会員の高齢化による退会者の増加及び新規会員となりうる年齢(65歳)の人が民間事業所へ就労する傾向がある。</li> </ul>				
課題を踏まえた今後の取組の方向性	<p>(今後の取組の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語学やパソコンなど専門的な生涯学習講座開催事業については、民業圧迫を避け新規学習者の拡大を図るため、講座内容を見直し、初・中級までの講座とする。</li> <li>・生涯学習講座については、年齢や性別に関わらず、学習意欲のある人が自分にあった講座に参加できるような講座を開催していく。</li> <li>・生涯学習自主活動者については、文化展などの発表の場を提供するとともに、生涯学習情報などの発信を行っていく。</li> <li>・シルバー人材センターは就労先の開拓と、より多くの人が就労機会が得られるようにしていく。</li> <li>・市民ニーズ、ライフステージに即した講座の開催を一層充実させ、新規受講者の拡大を図るとともに、図書館学習交流プラザでの夜間講座、土曜日講座の開催など勤労者を対象とした講座の拡大を引き続き図っていく。</li> <li>・文化協会への加入者を増やすため、春の文化展、秋の文化祭において、行政区で活動する団体を「招待団体」として発表の場を設ける。</li> <li>・シルバー人材センターについては、企業訪問やワンコインサービス事業等により新たな就労先の開拓を行い、ワークシェアリング等も有効活用しながら会員の増加を目指すよう支援していく。</li> </ul>				
市民意識	重要度	低い	満足度	高い	平成30年度市民アンケート調査による